

## 第1回 はじめに、講義内容の概要

### ○講師の自己紹介

### ○授業の概要と方法・到達目標

企業は人で動いています。企業やその他の組織にどんなに素晴らしい設備があったとしても、それを動かす人がいなければ、企業・組織は活動できません。企業・組織は人を雇い入れてはじめて成り立っているのです。大学生活を終えれば、ほとんどの学生の皆さんはいずれかの企業やその他の組織に雇われて働くこととなります。その時、どのような職業生活を送るのか、さまざまな面から企業と雇用の問題を共に考えましょう。それは、より良い職業生活を送るために必要な知識です。

講義は雇用に関する多岐にわたるテーマを取り扱います。特に、日本的雇用慣行・非正規化・長時間労働・性別分業の問題が重要なテーマであると考えています。講義では、取り上げたテーマに対して、様々な文献や資料を用い、具体的な事例などを随時紹介するとともに、時には関連するビデオを取り上げて、学生の皆さんと一緒に考えていきます。また、毎回の講義で、テキストから論点について簡単なレポートを求めます。

受講生の皆さんが企業と労働に関する基本的な知見を持つとともに、雇用に関して現在生じている様々な問題に対する経済学の専門的知識を習得し、また、皆さんが将来企業に雇用されて働く立場になった時に、経済学を習得した者として当然持つべき見識を備え、自立してそれらの問題に対処できること、などを目標とします。

### ○ビデオ

ある企業の仕事風景: 机の上の仕事、製造ラインの仕事、自動化された製造

### ○各回講義の内容・項目

#### ・第1回:はじめに、講義の概要:

講座担当者の自己紹介とこれからの講義内容の説明をします。企業とは何か、それ以外の組織とはどのようなものがあるのか、雇用とは何か、社会と企業・企業と人とはどのようにつながっているのか、はじめに考えます。

#### ・第2回:資本主義への発展と雇用制度:

雇用の歴史を考えます。資本主義以前はどのように働いていたのか、産業革命以後、資本主義の発展とともに、働き方がどのように変わってきたのか、取り扱います。

※この回から、毎回講義の冒頭、下記の「毎回小レポート」(通算12回)に提出されたレポートを紹介します。

#### ・第3回:日本的雇用慣行と企業中心社会:

日本的雇用慣行について考えます。日本型企業社会が成り立つとともに、どのように日本的雇用慣行ができ、どのように企業中心社会が成立してきたのかを考えます。また、中小企業における労働・雇用、外国における雇用制度も取り扱います。

#### ・第4回:雇用の多様化と正規・非正規雇用:

正規雇用と非正規雇用について考えます。雇用の多様化が叫ばれている現在、正社員や契約社員、パート・アルバイト、さらに派遣労働者、様々な形態で労働者が働いています。雇用の流動化・不安定就業といわれる中、産業構造の変化とグローバル化がどのように働く人の雇用に変化をもたらしているのか、取り扱います。

#### ・第5回:人材派遣制度と派遣労働者:

非正規雇用の中でも最も不安定就業といわれるのが派遣労働者です。雇用の規制緩和が行われる中で、人材派遣がどのような背景で合法化されたのか、それは雇用と人事管理にどのような影響をもたらしたのかを考えます。また、人材派遣制度とはどのようなものか、派遣労働者の働く現場や待遇、派遣切り、人材派遣会社

の実態、構内業務請負制と人材派遣の関係などを取り上げます。さらに、最近話題となっている「雇用によらない働き方」も取り上げます。

・第6回: 賃金制度と仕事の評価:

雇われて働くということの一番の目的は、労働の対価としての賃金を得ることであるともいえます。賃金はどのように決まるのか、どのように払われるのか、その場合の仕事の評価はどのようになされるのかを考えます。また職種等級による賃金査定と様々な手当・残業手当、さらに最低賃金制度なども取り上げます。

・第7回: 労働時間と長時間労働について考える:

企業に雇用されて働くということは、労働者が自らの生活時間の一部を、企業のために働く時間として売り渡すということを意味しています。売り渡した時間は食事や短い休憩以外にもっぱら企業が拘束します。それ以外の時間は労働者自らが決める自由な時間として、家事をおこなったり、趣味に当てたり、明日の労働のための休息・睡眠にあてます。しかしながら、今の日本の多くの労働者はそのような自由な時間が限られていて、長時間労働の元に置かれていることは周知の事実です。サービス残業・ブラック企業・ブラックバイトという言葉の流布はそのことを表しています。もっとも悲惨なことは過労死・過労自殺です。なぜ長時間労働になるのか、その実態を知るとともに、どうすれば自由な時間を取り戻すことができるかを考えます。

・第8回: 就職から退職まで:

企業に雇用されて働き、やがては退職する、という時の流れの中で、労働者は日々仕事をしています。その時の流れの最初が求職であり、採用されると就業規則に則って、与えられた職場と課せられた仕事をこなすこととなります。やがて職務を全うするようになり、幸運にも昇進の機会が与えられると、部下ができ上司と呼ばれるようになります。さらに昇進すれば役員という地位が与えられるかもしれません。しかしいずれは年齢を重ねることによって定年を迎え、退職することになります。また、途中で自ら進んで退職を選択することによって、新たな職場や起業をして働くことがあるかもしれません。何らかの不都合で降格や免職・解雇される場合もあります。そのような職場生活にかかわる様々な事項を考えます。特に学生の皆さんの多くは新卒採用という場面を控えています。講座担当者はこれまで採用や退職等の場面を企業の立場から携わってきました。そのような様々な場面とその経験を講義の中で話すこともあります。

・第9回: キャリアを考える:

企業に雇われて働くということは、自ら持つ能力・技術を買われて、その期待にこたえるように成果を出すことでもあります。これまで持っている能力や技術だけでなく、仕事をする中で蓄えた経験や技能は、仕事をするうえで最も大切な能力です。科学技術の発展によって仕事のやり方や内容も次々と変わっていきます。そのような技術進歩の中でどのように働き方が変わってきて、変化していくのかを考えます。

・第10回: 性別分業: 女性労働と外国人労働者等について:

性別分業はこれまでの日本の社会の中で根強く残っている慣習です。特に女性が雇われて働くことが多くなった現代では、女性労働の問題はとても重要な事項です。男女雇用均等と言われながらも、賃金や待遇・昇進で大きな差別と壁があることは確かです。女性労働の問題は女性のみの問題ではなく、男性の働き方の問題でもあるのです。また、グローバル化といわれる中で外国人労働者・移民の問題や高齢者雇用・障害者雇用の問題も考えます。

・第11回: 労働者を守る制度について:

雇う企業と雇われる労働者は雇用契約上では対等な立場にいます。しかしながら、実際には企業の側が有利な立場にいます。そのためこれまでの歴史の中で様々な労働者を守る制度が築かれてきました。それらは工場法であり、労働者が団結して労働組合を作ることであり、労働安全衛生制度であり、雇用保険や労災保険・健康保険であり、また退職後の生活のための年金制度であります。それらを知ることは働く人々にとって、とても重要な知識であり、あらかじめ知ることによって自らを助ける糧になります。そのような問題を考えます。

・第12回: さまざまな働き方・新たな働き方:

企業に雇われて働くことは、一般的には民間企業・私企業で働くことを指しています。しかし、企業にはそれ以外に公企業があり、労働者はそこでは公務労働者として働きます。またNPOやNGOで働くこともあります。こ

のように様々な企業体での働き方を考えます。また、これまでの日本では高度成長の中で、都市において企業が成長してきました。そこでは働く人々は都市に集中してきましたが、その一方で地方では雇用の機会が失われてきました。近年仕事おこしとして地方における働き方にあらたな芽が芽生えつつあります。そのような新たな働き方を考えます。

・第13回:雇用の流動化と労働規制緩和政策:

多くの先進諸国はこれまでの労働規制を緩和しようとする政策が近年とられてきています。日本も例外ではなく、労働者の働き方を守る様々な政策や規制を「岩盤規制」と呼んで掘り崩そうとしています。それはどこから来たのか、またどのようにしようとしているのか考えます。そして、よりよく働くためには何が必要なのかも考えます。

・第14回:企業と雇用システム・まとめ1:日本的雇用慣行と非正規化:

これまでの講義の内容を2回に渡ってもう一度概括します。まとめ1では日本的雇用慣行と非正規化の問題を取り上げます。

・第15回:企業と雇用システム・まとめ2:長時間労働と性別分業:

これまでの講義の内容を2回に渡ってもう一度概括します。まとめ2では長時間労働と性別分業の問題を取り上げます。

○テキスト

森岡孝二『雇用身分社会の出現と労働時間—過労死を生む現代日本の病巣』桜井書店、2019年2月

序章 新自由主義の席捲は雇用関係に何をもたらしたか—ブラック企業と雇用身分社会—

第1章 労働者派遣制度と雇用概念

第2章 企業社会論の分析枠組みを問い直す

第3章 日本資本主義の現局面と雇用・労働問題

第4章 相次ぐ大企業の品質不正とその背景

第5章 シェア経済は「未来の働き方」か

第6章 いま『資本論』の労働時間論をどう読むか

第7章 日本資本主義分析と労働時間

第8章 労働時間の性別二重構造と二極分化

第9章 労働時間の決定における労使自治と法的規制

第10章 安倍内閣の「働き方改革」と「時間外労働規制」

終章 過労死110番の30年と過労死防止運動—新しい社会運動の歩み—

○参考文献の紹介

森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、2015年10月

森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012年4月 特に、第1章「企業社会の行き着いた果てに」、第2章「人材派遣業の膨張・収縮と経営実態」、第3章「パートタイム労働市場と女性雇用」、第5章「グローバル化と中小企業における雇用破壊」、第8章「労働CSRと格差・貧困」

伍賀一道『「非正規大国」日本の雇用と労働』新日本出版社、2014年10月

伍賀一道・脇田滋・森崎巖編著『劣化する雇用—ビジネス化する労働市場政策』旬報社、2016年7月

ロナルド・ドーア『働くということ—グローバル化と労働の新しい意味』中公新書、2005年4月

濱口桂一郎『新しい労働社会—雇用システムの再構築へ』岩波新書、2009年7月

森岡孝二『就職とは何か—(まともな働き方)の条件』岩波新書、2011年11月

森岡孝二『貧困化するホワイトカラー』ちくま新書、2009年5月

□その他の文献:

橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書、2018年1月

竹信三恵子『ルポ雇用劣化不況』岩波新書、2009年4月

今野晴貴『ブラック企業—日本を食いつぶす妖怪』文春新書、2012年11月

森岡孝二編『格差社会の構造—グローバル資本主義の断層』桜井書店、2007年9月 特に、第1章「新しい働きすぎとホワイトカラー・エグゼンプション」、第2章「雇用の外部化と製造業における派遣・請負」、第3章「アメリカのスタッフィング・サービス産業と労働市場改革」、第4章「ディーセントワークと日本の労働市場」

森岡孝二編著『現代日本の企業と社会—人権ルールの確立をめざして』法律文化社、1994年2月 特に、第2章「崩れゆく終身雇用制と非正規労働者」、第5章「残業およびサービス残業の実態と構造的誘因」、第7章「女性の社会的労働参加と企業社会の変革」、第8章「日本における外国人労働者の流入過程と労働者派遣法」

など。

適時、講義の中で関連する文献等を紹介します。